

助成団体名 安定ヨウ素剤ネットくまもと

2019年度「水俣・熊本みらい基金」助成事業報告書

企画テーマ	放射線の危険性についての講演会
取り組み実施期間または日時	2019年11月9日

【取り組み目的】

2011年3月の福島第一原子力発電所事故により放出された放射性物質は、東日本一帯を広く汚染し、福島のみならず関東・東北地方で重大な被害をもたらしています。中でも子どもの甲状腺ガン多発は事故前の数十倍のレベルに達していますが、県や国は放射線との因果関係を認めようとしません。

九州でも鹿児島県川内原発、佐賀県玄海原発が再稼働しており、熊本は四国の伊方原発も合わせ3方から原発に囲まれています。これらの原発で重大事故が起これば、住民に被害が及ぶことは火を見るよりも明らかです。甲状腺ガンの原因となる放射性ヨウ素のみならず、人工放射線の環境に対する影響について学び、正しい知識を広めることによって、子どもたちの命と健康を守りたいと講演会を企画しました。

【取り組み内容と成果】

原発事故から被ばくについて考える講演会

「子どもを守るために！ どうなってるの放射線？」

講師：崎山比早子さん

(医学博士、3・11甲状腺がん子ども基金代表理事)

放射線についての基礎知識・DNA損傷の仕組み・甲状腺やその他のがんに対する影響、福島の現状等、詳しく解説して頂きました。

放射線の危険性について、参加者からは、「正しい知識が大切だと感じた」

「国の対応が不十分で残念」「子どもたちに間違っただけの内容の副読本で教育するのはとんでもないこと」等の感想が寄せられました。

また、この企画は、水俣・宮崎県小林市の知人と連絡を取り合い、熊本市から連続3日間の崎山講演会が実現できました。九州に放射線についての関心を高めることができたのではないかと思います。